

本省往復簿

明治四年七月

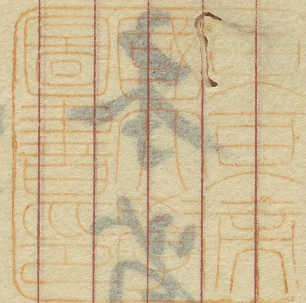
東 京 帝 國 大 學	庶務課
部 門	
番 號	3

五十年史料

189

明治四年七月

本省経緯簿



B 95475

省級敬錄

本省參省退出刻限並休暇互通治定片官為
心得此段相連片也

一每月一六休暇之事

一每日第九時參省第四字退出之事

辛未

八月二日

文部省

本校

進而東南兩校八便宜一任七在事

王陽明

東

卷之四

卷之四

清江先生文集卷之五

東外山陽縣志卷之四

任一等議負

古詩

宣下お減り陳ねお逢

辛未

八月

式部局

文部省

家

風天

文部省

八月廿四

文部省

新二番附員

今般學制が改革なる間廿四日、東南兩校は
一先改組校と爲す校寄附の生徒は早く退校
の必要なる事

但入校差許り名に違ふ日限の必要なる事
猶予の縣示するに依るを以て、或る不
止事、情に依りて其の必要なるに依りて不
なる事

辛未

九月廿四

文部省

高等師範の募集に依りて、其の必要なるに依りて不
なる事

東京大学

水月寺

五
四
三
二
一

1875

[illegible]

卷之四

西人教養科大學二卷之四

卷之四

後更北帝成更青

文華大書

任文部大丞

從五位下田久成

任文部中教授

從五位 岩佐 純

任文部少博士兼大侍医如故

佐藤尚中

任文部大丞

正位松岡時節

任文郭以博兼司法少判事如故

正六位 箕作麟祥

汪編輯助

從六位內田正楨

任編輯助

從六位忸井為奏

任文部中教授

正七位司馬

任文部中教授

正七位島村昇

任編輯助

正七位川本清

任文部少教授

正七位似生寅

任編輯權助

從七位禾村正辭

任編輯權助

伊藤清民

任編輯權助

田中芳男

任編輯權助

阿部正保

文部省七等出注

正七位中島永元

文部省七等出注

正七位肥田昭敷

文部省七等出注

後從七位近江新次

文部省七等出注

前正七位杉山孝敏

文部省七等出注

奥山政敬

文部省七等出注

正七位公阿和

文部省七等出注

正七位公阿和

文部省七等出注

正七位公阿和

文部省七等出注

正七位公阿和

今般諸規則市改草ニ付将来面於抹会市市
以九時ヨリ市上ノ字出ラ限リ差出ニ可申付段達
カシハ也

但シ至急ニ付ハ此限ニあハル

市市

九月廿九日

文部省

本校獨逸教師 唯曾子士之字後中少學教師ルイ
スに張家お招對話以る一なる中より多なる家
り振只今五番おまう一り省此位中世也

十月二日

文部省

本校

馬中

Blank page with red vertical lines.

十月十日

別紙之通左東方心經申入道也

幸来

十月十日

本省

本校

通左東方心經申入道也

卿

大丞

録

司法省より別紙之通中平省本校にあり

下りて好む

辛未丁月四日

刑部取斗方府縣台達しり系自去月廿日
及馬折合り寄申月二日山回等々極手の面取
るに宛ふる方申宛えを移る考りて諸君等
系取宛方引申即日因款請ふ事候解割場
引渡すに宛る方移る諸君等方互難斗
るに引常日一立宛る方こそ候當道相違
得て引渡すに宛る方知置るに及此等
方余申入也

辛未

十月三日

司馬省

文部省

以年

来者上言上言當夜生徒試業いふ一以旨を以體
 とも格書及なり至高夜捕之に匠二名ニを以て
 川とて予執りて上夜ゆゑに内而人々多し羽等
 いふ一高夜と出張なり一り孫上夜の口達一
 多し一高夜及の進達なり也

辛未

十月九日

南校

文部省

家

（Faint vertical text in a red-lined box, mostly illegible due to fading.)

別代之通り来る急及の間合座也

奉
来

十月十日

本省

不
校

（Faint vertical text, possibly a signature or date.)

別紙此海邊各所該國貢名所之通く山讓
海一 亦申付有申と云はれし所は建二所一 且
函館之所院と云ふは近き所捕合と云ふは中
秋之振舞の事也且梓之該國師す所之門村
自後有島元函館より各所へお傳しをばり口祿
を達り給ふ所と云ふは該國邊よりお傳しをばり
振舞達よりお傳しをばり云々申入也

辛未

十月十日

別紙開拓後より四五年に梓之該國師中の
之川村貞治と姓名より其職名は年中に左
之と云ふ所被に於る所は亦お傳しをばり云々
申入也

中野右三
梓之該國
に於る

世に及ぶ事十八也

辛未

十月十日

亦省

亦省

亦省之該國師中の之川村貞治と姓名より其職名は年中に左
之と云ふ所被に於る所は亦お傳しをばり云々申入也

Blank lined area for text on the right page.

大内史田中不二

任文部大丞

右奉旨

宣下相成り来此名相達也

幸来

十月十日

本省

本校

山石川藥園之同色至急乃用青皮也
方片也
辛未
十月三日
本省
東板
延為健之四海之事

山石川藥園之同色至急乃用青皮也
方片也

辛未

十月三日

本省

東板

延為健之四海之事

（Faint vertical text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading.)

法後限り管儀の用を以て法也。先白山中。秘雲
少多。い。理。多。家。と。年。ら。四。年。と。一。年。と。公。少。候
と。角。九。何。候。と。と。い。つ。と。宜。者。あ。い。日。又。後。御。し
告。當。の。用。一。々。年。何。候。と。と。宜。者。あ。い。日。又。後。御。し
山。宿。調。り。理。多。と。と。公。少。候。と。と。宜。者。あ。い。日。又。後。御。し

丁卯年

不省

法後

（Small handwritten mark or character below '法後'.)

全書百卷後每卷高後一十年少後概并小
乃重

[Faint vertical text in the right column, mostly illegible due to fading]

佐藤以將之殿之延記時岩佐中為授殿名
代高所領戴而中其年山也一中山堂家以而授
方之及此中進也

辛未

十月十三日

永省

録

永授

録

[Faint vertical text in the right column, mostly illegible due to fading]

常宿の山を人服雲の夜に宿海一に流石斗
ころちねあふより流石の海よりくく人海を
流石の山を人の出のくくことまが有る方
あふ一ころ人なることまが有る方
丁月丁酉

星中後中流

山後

山

藥品目錄

蜀葵

五斤

五斤

ノ式百五拾分

亞麻仁

六斤

五斤

ノ式百五拾分

招搖根

五斤

五斤

ノ式百五拾分

玫瑰花

五斤

五斤

ノ式百五拾分

七葉樹皮

八斤

五斤

ノ式百五拾分

白改子

五斤

五斤

ノ式百五拾分

刺賢怪爾

七斤

五斤

ノ式百五拾分

菲汰斯

五斤

五斤

ノ式百五拾分

莖菜

五斤

五斤

ノ式百五拾分

蔓陀羅葉

五斤

五斤

ノ式百五拾分

罌粟

五斤

五斤

ノ式百五拾分

蒲公菜

五斤

五斤

ノ式百五拾分

蜀羊泉

五斤

五斤

蘆根

ノ百五拾分

三拾分

三拾分

加密例

式百斤

三斤拾分

瑞香皮

ノ三拾分

拾分

三斤拾分

實芝合利斯葉

式拾五斤

三斤拾分

苗香

ノ三拾分

油二升ノ五拾分

三斤拾分

泥蒿根

式斤

三斤拾分

ノ五拾分

胡葦子

七斤

三斤七分

ノ百九拾分

薑

式拾斤

三斤拾分

ノ式百拾分

ノ式拾五斤

先般貢進生由慶止と名取と入校差件と第廿四
限うの違は案第手泊縣ある年限の違ふこと
同校より撰筆あるものありと案第法は初より
撰筆滞るものありと案第初より撰筆ありと案
第より撰筆ありと案第及の打合も也

先般貢進生由慶止と名取と入校差件と第廿四
限うの違は案第手泊縣ある年限の違ふこと
同校より撰筆あるものありと案第法は初より
撰筆滞るものありと案第初より撰筆ありと案
第より撰筆ありと案第及の打合も也

十月十八日

小省

南校

先般貢進生由慶止と名取と入校差件と第廿四
限うの違は案第手泊縣ある年限の違ふこと
同校より撰筆あるものありと案第法は初より
撰筆滞るものありと案第初より撰筆ありと案
第より撰筆ありと案第及の打合も也



[illegible][illegible]

孝

十月廿七

東京府

文部省

和風一多既此所見其源の用お成法にハ
文曰標不歸るを以て中一なる河出是文部置
中一なる所置も了也

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible due to fading and ghosting.)

此省編輯権大所業用部年高省軍官家
部採用より高き事多し其の明三白才十府禮
後云用出省陸軍秘史より出た標の達之
こゝにあり及の御名也

幸未

十月二日

文部省

文部省

（Faint vertical text, possibly a signature or date.)

分紙を通多部省より其の年高の役を見
はるるなるなりは其の事あり也

（Faint vertical text on the left margin.)

辛未

十月

丙省

東校

丙申

編輯局人少自來而後大屬必用之人多其以爲
又此中上人也

編輯局人少自來而後大屬必用之人多其以爲
又此中上人也

東京大學



